

基盤地図情報ビューア操作説明書

2023年11月改訂

【ソフトウェアについて】

○動作環境

- ・このソフトウェアは、Microsoft(R)Windows(R)上で動作します。
Windows10(x64) 、Windows11(x64)において動作確認を行っております。

○注意事項

- 本ソフトウェアの著作権は国土地理院にあります。
- 本ソフトウェアの改ざんや目的以外の使用を禁止します。
- 本ソフトウェアの使用によって発生した利益・損害について、国土地理院は一切の責任を負いません。

○よくあるご質問

- 基盤地図情報サイトの「よくあるご質問」 (<https://www.gsi.go.jp/kiban/faq.html>) をご確認ください。

○お問い合わせについて

- 下記の基盤地図情報サイトURLよりお問い合わせ願います。

(<https://geoinfo2.gsi.go.jp/contact/Inquiry2.aspx?pcode=1003&bcode=100301>)

○商標

- Microsoft、Windowsは米国MicrosoftCorporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- Windows 10 の正式名称は、Microsoft(R) Windows(R) 10 Operating System です。
- Windows 11 の正式名称は、Microsoft(R) Windows(R) 11 Operating System です。

※ここに記載されている事項は予告なしに変更される場合があります。

※各機能の詳細説明は、オンラインヘルプを参照下さい。

※各メニュー機能の詳細説明は、オンラインヘルプに記載されています。

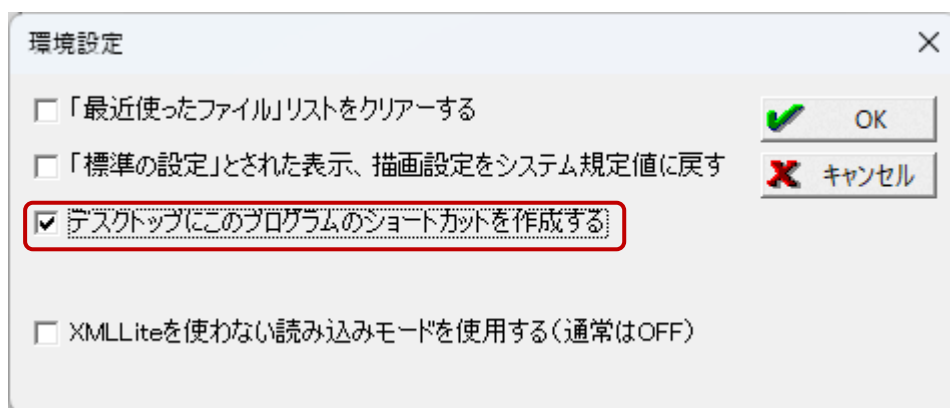
デスクトップにアイコンをつくる.....	2
プロジェクトを新規に作成する.....	3
ヘルプを参照する.....	5
背景図(数値地形図)の登録.....	6
表示設定の変更.....	8
ステータスバー.....	12
レイヤーリスト.....	13
表示メニューの実行.....	14
要素の属性を見る.....	15
距離と面積.....	15
エクスポート.....	16
標高メッシュをシェープファイルへ出力.....	17
プロジェクトの保存.....	19
このプログラムの情報.....	19


デスクトップにアイコンをつくる

このプログラムのアイコンを作成します。

操作方法

1. ダウンロードした ZIP ファイルを解凍し、フォルダー内の「FGDV.exe」をダブルクリックしてプログラムを起動します。
2. [ファイル]-[システム環境設定]を選択すると、[環境設定]ダイアログボックスが表示されます。
3. 「デスクトップにこのプログラムのショートカットを作成する」チェックボックスを ON にして、【OK】ボタンをクリックしてください。



4. デスクトップに本ソフトウェアのアイコン  が追加されます。

プロジェクトを新規に作成する

プロジェクトとは、複数の基盤地図情報ファイルを読み込んで、1つの地図として表示できるようにデータがレイヤー分け構成されたものを示します。

基盤地図情報データを読み込んでプロジェクトを構成します。

操作方法

1. **【ファイル】-【新規プロジェクト作成】**を選択すると、**【新規プロジェクト作成】**ダイアログボックスが表示されます。

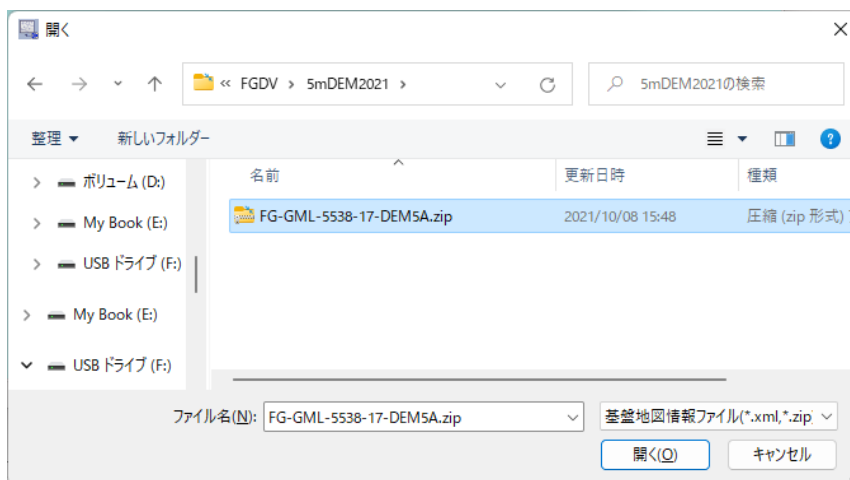
【ファイル】-【新規プロジェクト作成】 



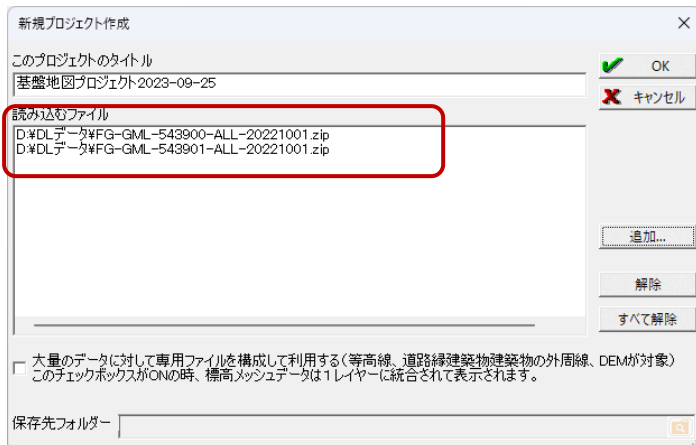
2. **【追加】**ボタンをクリックすると**【ファイルを開く】**ダイアログボックスが表示されます。データの入っているフォルダーを指定します。

ファイルを指定して**【開く】**ボタンをクリックします。

(Shift キー又は、Ctrl キーを併用することで、複数のファイルを同時に指定することができます)



3. 選択したファイルが「読み込むファイル」一覧に表示されます。

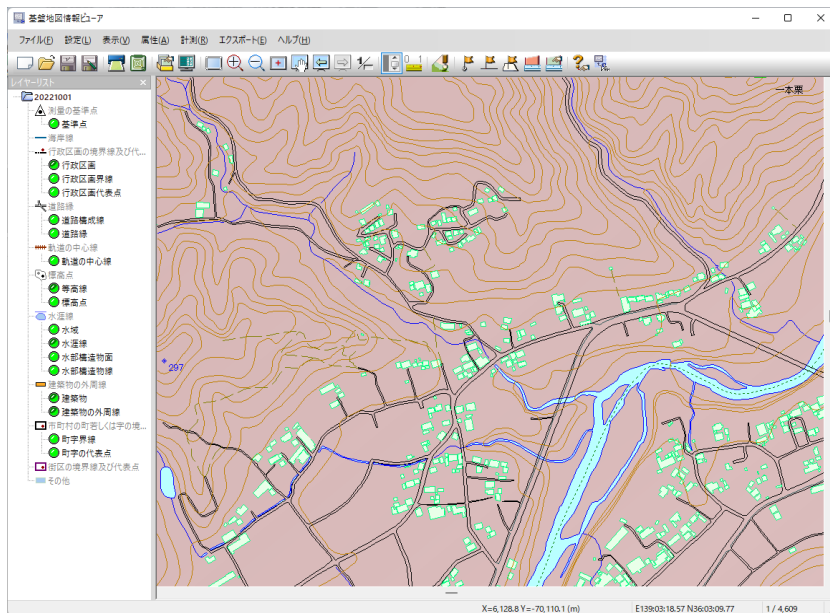


必要に応じて「大量のデータに対して専用ファイルを構成して利用する」オプションにチェックを入れて、ファイル保存先のフォルダーを指定します。

プロジェクトファイルとして保存することで、メモリに入りきらないような大量のデータを表示しやすくなります(処理時間は一般に増加します)。対象となる地物は、「等高線」「道路線」「建築物」「建築物の外周線」「DEM(標高データ)」です。

このチェックが ON の時、標高メッシュが複数ある場合は、データが統合されて、レイヤーには「標高メッシュ(統合化)」と表記されます。

4. 【OK】ボタンをクリックすると、下図のようにデータが読み込まれます。



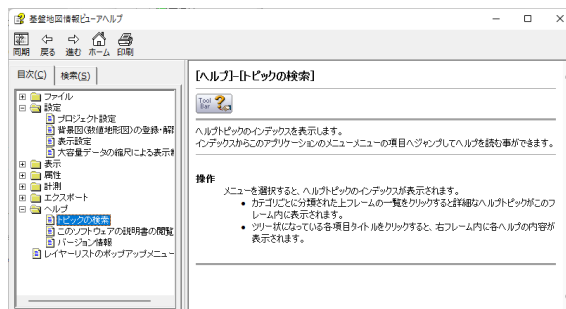
5. [ファイル]-[名前を付けて保存]で、このアプリケーション独自のプロジェクト(拡張子:fgdv)として保存できます。

ヘルプを参照する

このアプリケーションでは、ヘルプファイルを参照できます。

[ヘルプ]-[ヘルプトピックの検索]を実行すると、ヘルプファイルが表示され、目次から、または単語の検索により各機能の解説が表示されます。

[ヘルプ]-[ヘルプトピックの検索]



背景図（数値地形図）の登録

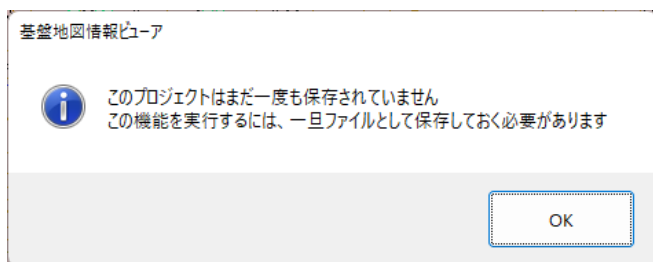
作成したプロジェクトに、背景図として数値地形図(*.xml)を登録することができます。

操作方法

1. プロジェクトファイルが表示されている状態で、[設定]-[背景図(数値地形図)の登録・解除]を選択すると、[背景図(数値地形図)の登録・解除]ダイアログボックスが表示されます。

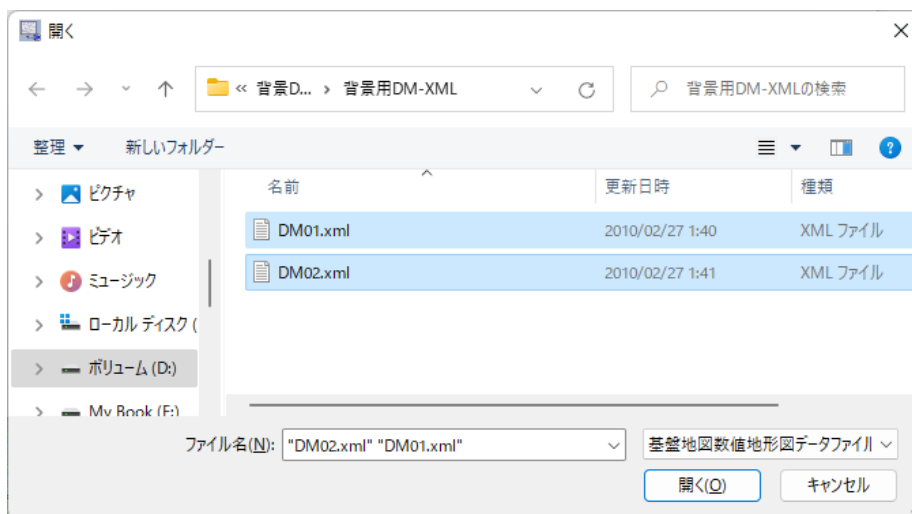


※プロジェクトは一度保存されている必要があります。保存されていない場合は、メッセージが表示されます。



2. 【追加】ボタンをクリックすると、[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。

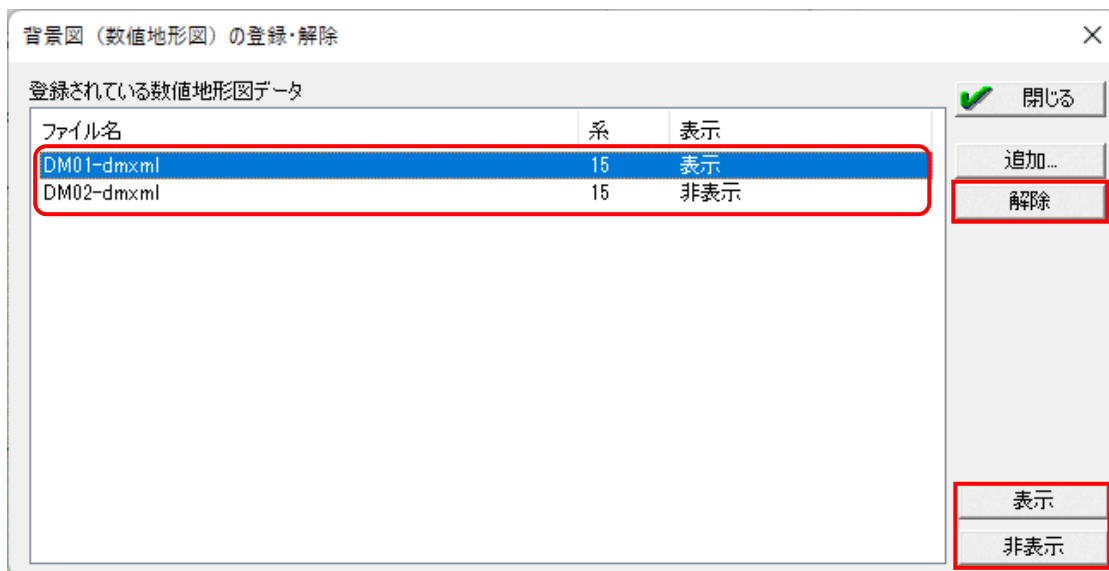
背景に登録する画像を選択後、【開く】ボタンをクリックします。



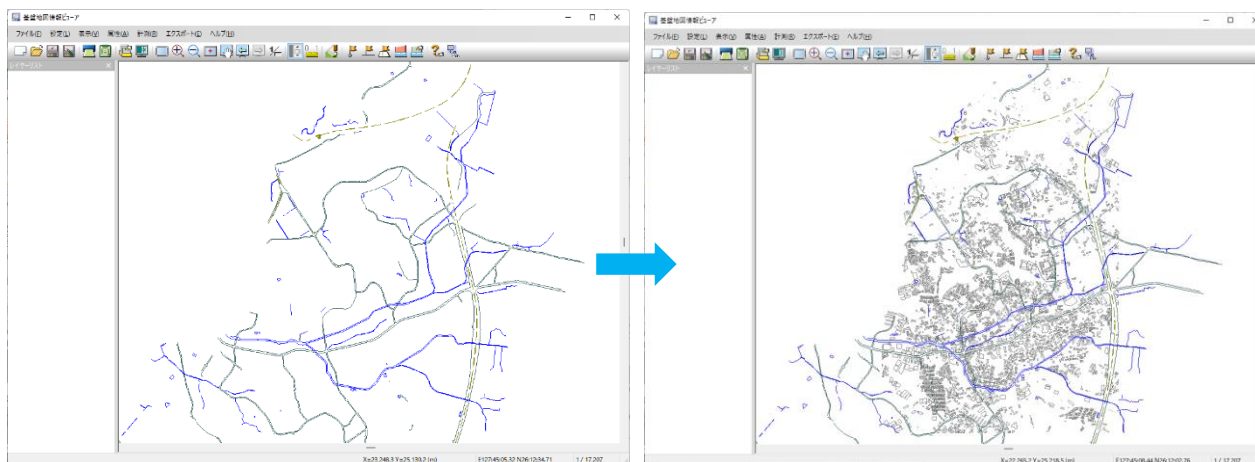
3. 読み込んだファイルが[背景図(数値地形図)の登録・解除]ダイアログボックスに表示されます。

リストを選択して、【解除】ボタンをクリックすると、選択したリストを解除します。

選択した状態で、【表示】【非表示】ボタンをクリックすると、背景図の表示状態を変更できます。



4. 【閉じる】ボタンをクリックすると、処理を反映します。



表示設定の変更

[設定]-[表示設定]メニューを利用して、項目ごとに表示状態を切り替えたり、描画色や文字のフォントを変更したりすることができます。

[表示]-[表示設定]



操作方法

1. [設定]-[表示設定]を選択すると、[表示設定]ダイアログボックスが表示されます。

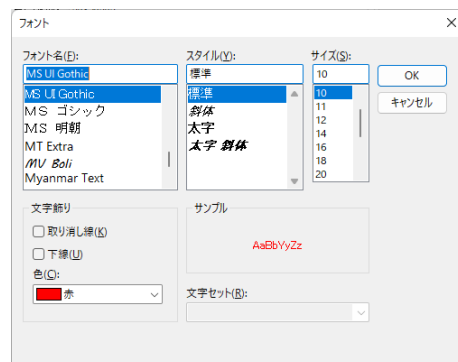
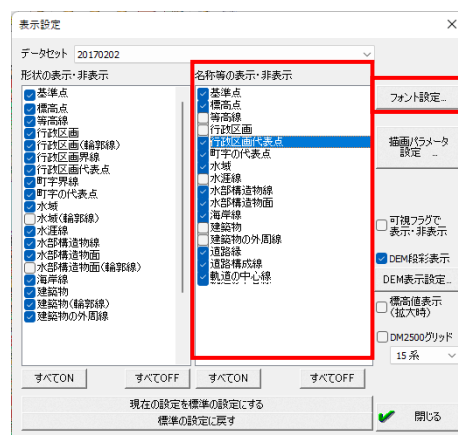
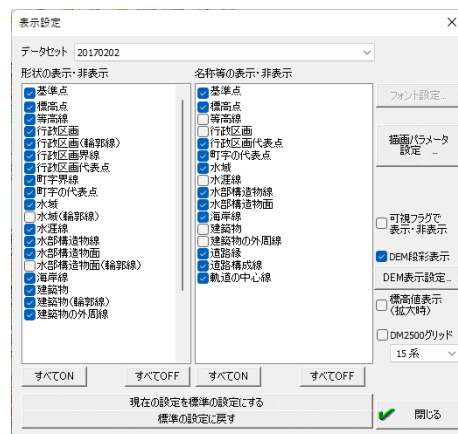
※ [プロジェクトの設定]ダイアログボックスの【表示設定】ボタンからも[表示設定]ダイアログボックスが表示されます。

2. 形状の表示切り替えは、左側のチェックボックスを、名称等の文字データの表示切り替えは右側のチェックボックスを ON/OFF することで変更できます。

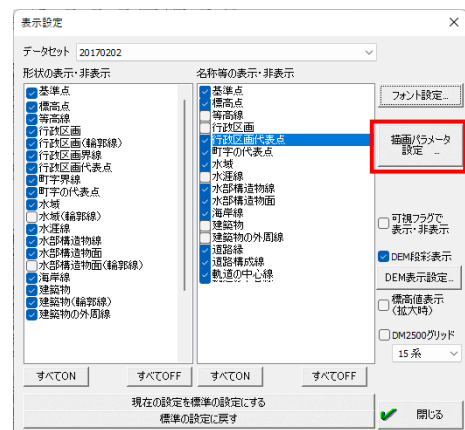
3. 文字のフォントやサイズ、色を変更するときは、右側の「名称等の表示・非表示」一覧からフォントを変更する項目を選択してから、【フォント設定】ボタンをクリックします。

4. [フォント]ダイアログボックスが表示されます。

設定を行い、【OK】ボタンをクリックしてください。

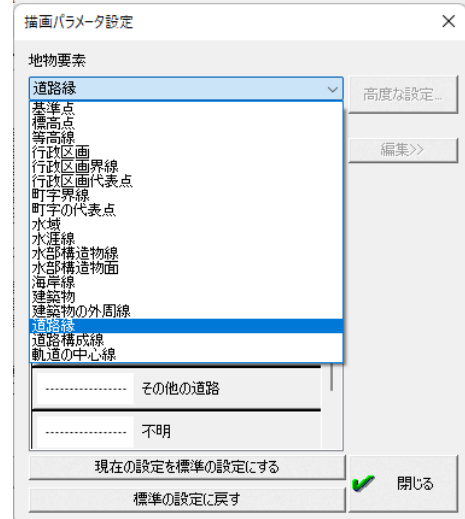


5. 形状の表示方法を変更するには、[表示設定]ダイアログボックスの【描画パラメータ設定】ボタンをクリックします。



6. 【描画パラメータ設定】ダイアログボックスが表示されます。

「地物要素」プルダウンから、変更する要素を選択して、描画パラメータを変更することができます。設定が終わりましたら、【閉じる】ボタンでダイアログボックスを閉じてください。



点要素の場合

パラメータを選択して【編集】ボタンをクリックすると、[ポイントパターンの設定]ダイアログボックスが表示されます。一覧から変更するシンボルを選択して、【OK】ボタンをクリックすると、変更されます。

※「基準点」データの場合は、「表示しない」を選択することができます。



線要素の場合

パラメータを選択して【編集】ボタンをクリックすると、[ペンの設定]ダイアログボックスが表示されます。線種や幅、色などを変更してから【OK】ボタンをクリックすると、変更されます。



面要素の場合

パラメータを選択して【編集】ボタンをクリックすると、[ブラシの設定]ダイアログボックスが表示されます。塗りのスタイル、色などを変更してから【OK】ボタンをクリックすると、変更されます。



【高度な設定】ボタンは、「行政区画」データの時のみ利用できます。

詳しい使用方法はヘルプをご参照ください。



7. 読み込んだデータに DEM が含まれている場合は、

【DEM 表示設定】ボタン、「DEM 段彩表示」チェックボックスがアクティブになります。

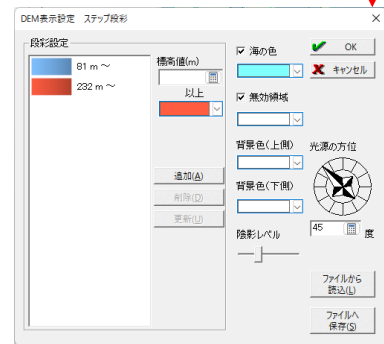
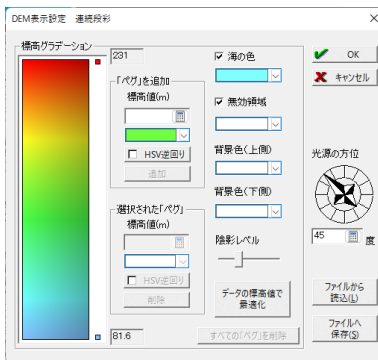
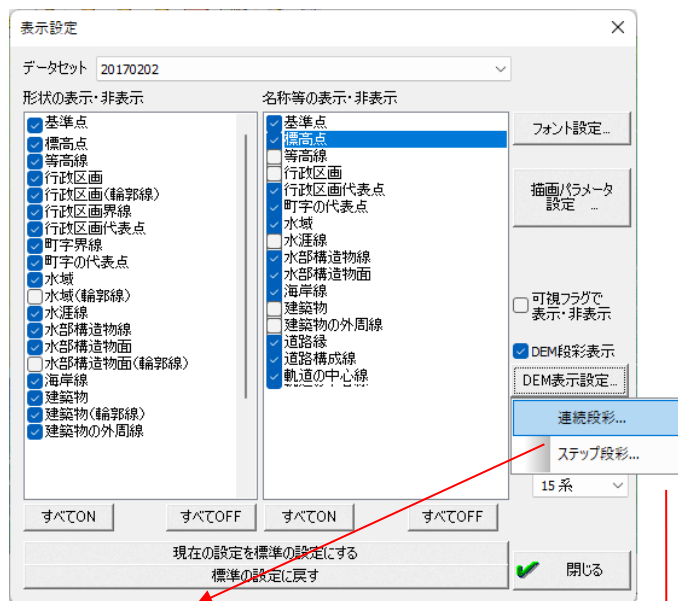
【DEM 表示設定】ボタンをクリックすると[連続段彩]、[ステップ段彩]メニューを表示します。

選択したメニューによりそれぞれの DEM 表示設定ダイアログボックスを表示します。

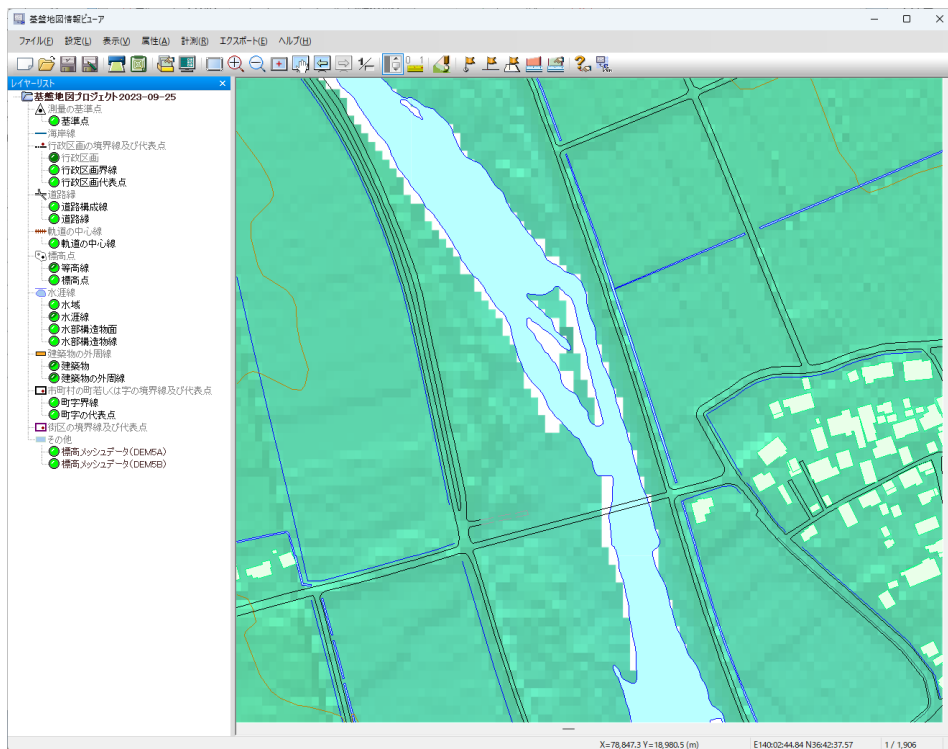
[DEM 表示設定 連続段彩]ダイアログボックスでは標高グラデーションのカラー設定を行います。

[DEM 表示設定 ステップ段彩]ダイアログボックスでは、ステップ段彩のカラー設定を行います。

カラー設定方法については、ヘルプを参照してください。



8. [表示設定]ダイアログボックスを【閉じる】ボタンで閉じると、変更内容がプロジェクトに反映されます。



ステータスバー

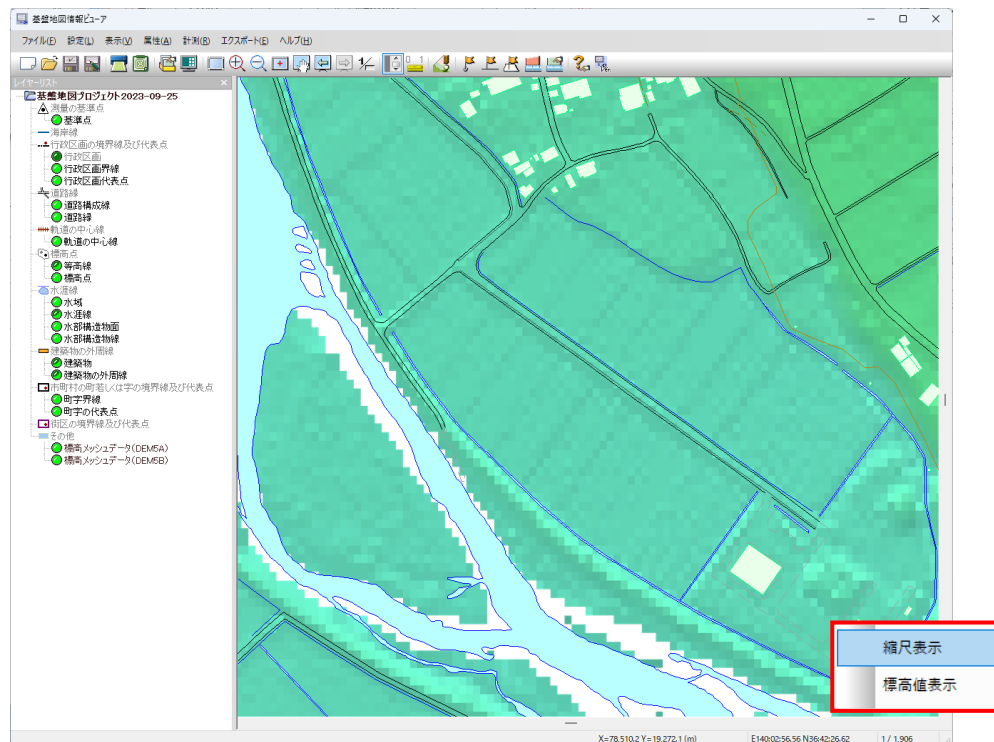
「ステータスバー」のペインの表示項目として、「縮尺」または「標高値」を設定することができます。

操作方法

1. ステータスバーの右端にあるペインで右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示され、「縮尺表示」「標高値表示」を選ぶことができます。

DEM がある時、「標高値表示」を設定すると、マウス位置の標高が表示されます。

また、[表示]-[ステータスバー第 3 ペイン表示]からも選択することができます。



レイヤーリスト

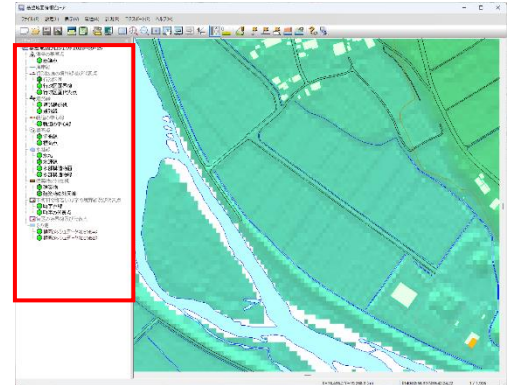
プロジェクトに登録されている地物は、[レイヤーリスト]に表示されます。

レイヤーリストでは、読み込まれているレイヤーの表示状態を確認でき、レイヤーの表示状態を切り替えることができます。

レイヤーリストが表示されている時は、[表示]-[レイヤーリスト]メニュー横のチェックが付きます。レイヤーリストが表示されている状態でコマンドを選択すると、レイヤーリストを非表示にします。

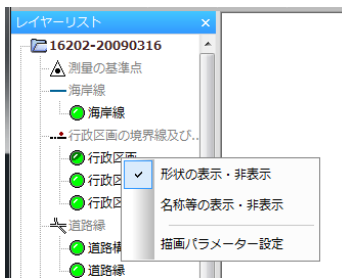
操作方法

1. [表示]-[レイヤーリスト]メニューを選択すると画面左端にレイヤーリストが表示されます。
2. レイヤー名をクリックすると、レイヤーの表示/非表示を切り替えることができます。



レイヤー名の前に表示されるアイコンで表示状態が確認できます。

- 行政区画の境界線及び代表点
- 行政区画 ← 「形状」「属性」のどちらかが表示
 - 行政区画境界線 ← 「形状」「属性」のどちらも表示
 - 行政区画代表点 ← レイヤーが非表示



表示・非表示は名称を右クリックしてチェックの ON/OFF で確定します。

表示メニューの実行

全体表示方法

1. [表示] - [全体表示] を選択すると、データ全域が表示されます。



(ボタン)

拡大操作方法

1. [表示] - [拡大] を選択すると、ズームインアイコンが表示されます。



(ボタン)

マウスの中ボタン、もしくは、Ctrl キーを押しながらマウスの左ボタンでも拡大モードになります。

マウスホイール・ホイールつきマウスのホイールを奥に回転すると、拡大ズームします。

中央任意拡大モード

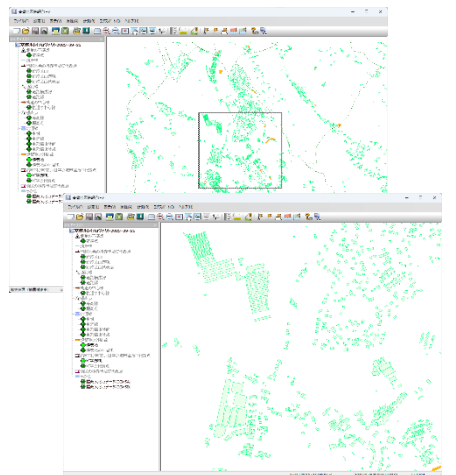
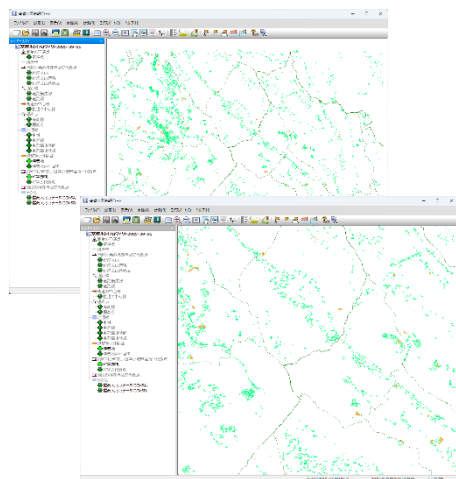
指定した一点を中心として適当に拡大します。

- ① 拡大したい中心位置にカーソルを動かします。
- ② マウスの左ボタンをクリックします。この時点で指定した点を中心として適当な範囲が拡大されます。

範囲指定モード

拡大する範囲をユーザーが指定して実行します。

- ① 拡大したい範囲の四隅点位置にカーソルを動かします。
- ② マウスの左ボタンをクリックすると拡大フレームが表示されますので、ボタンをクリックしたままマウスを動かし(ドラッグ)ます。この時、どの方向にも動かすことができます。
- ③ 拡大したい領域が決まったら、マウスの左ボタンを離します。この時点で指定範囲の領域を拡大表示します



縮小操作方法

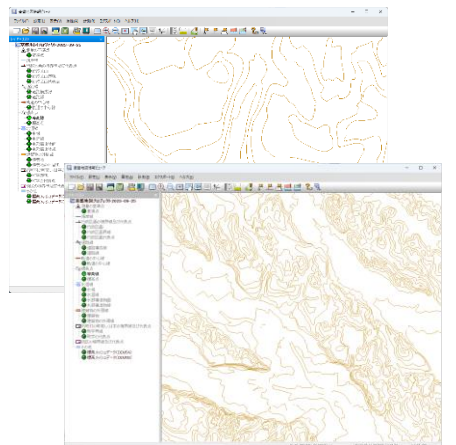
1. [表示] - [縮小] を選択すると、ズームアウトアイコンが表示されます。



(ボタン)

また、Ctrl キーを押しながらマウスの右ボタン又は、マウスホイールつきマウスのホイールを手前に回転すると、縮小ズームすることが可能です。

2. 縮小したい中心位置にカーソル移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
クリックした位置を中心に適当な範囲に縮小されます。



要素の属性を見る

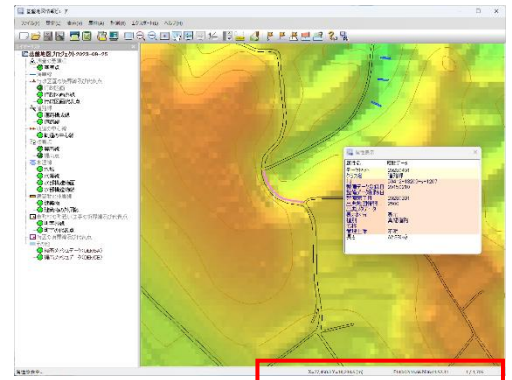
「属性表示」機能で、図上の要素の情報をすることができます。

操作方法

1. 【属性】-【点属性表示】、【線属性表示】、【面属性表示】を実行します。



2. 属性表示ウィンドウが表示されますので、照会する点・線・面をクリックします。
面属性の場合、指定された位置にあるすべての面の情報を表示します。
3. また、ステータスバーには常にマウス位置の XY 座標が表示されています (右図赤枠部分)。



4. 属性表示ウィンドウのシステムメニュー【クリップボードへコピー】(タイトルバー位置でマウス右クリック)を実行すると属性情報をクリップボードにコピーします。

距離と面積

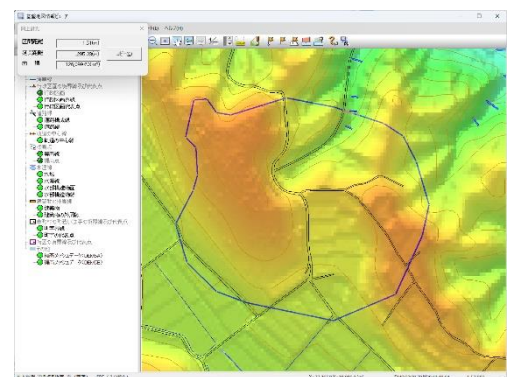
図上で距離と面積を求めます。

操作方法

1. 【計測】-【距離と面積】を実行します。



2. 【図上計測】ダイアログボックスが表示され、マウスが十字カーソルになり、図上計測モードに入ったことが分かります。
3. 計測地点を順にクリックしていくと、計測ラバーバンドが表示され該当領域の情報が【図上計測】ダイアログボックスにリアルタイムで表示されます。
4. 計測を終了する場所でマウスの右ボタンをクリックします。
Esc キーを押すと折れ点ごとに、計測をキャンセルできます。
5. このコマンドモード自体を終了する場合は、もう一度マウスの右ボタンをクリックしてください。
6. 【図上計測】ダイアログボックスの【コピー】ボタンをクリックすると、計測値がクリップボードにコピーされます。
テキストエディタ等に貼り付けて、結果を利用することも可能です。

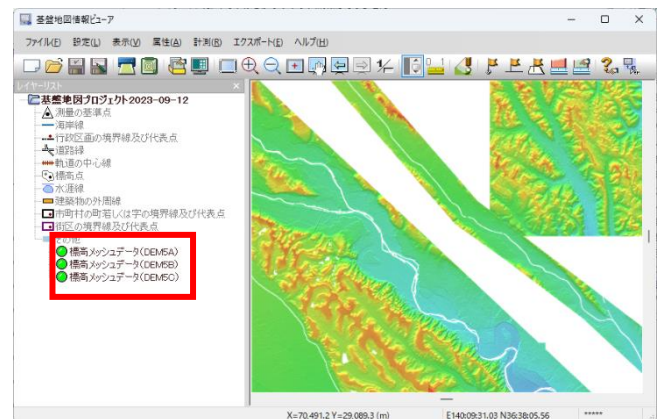
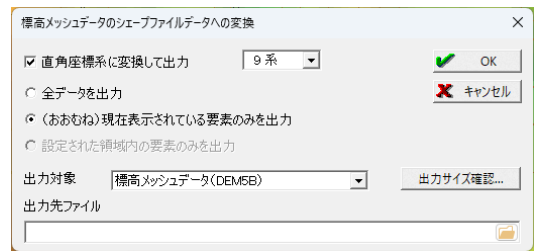


標高メッシュをシェープファイルへ出力

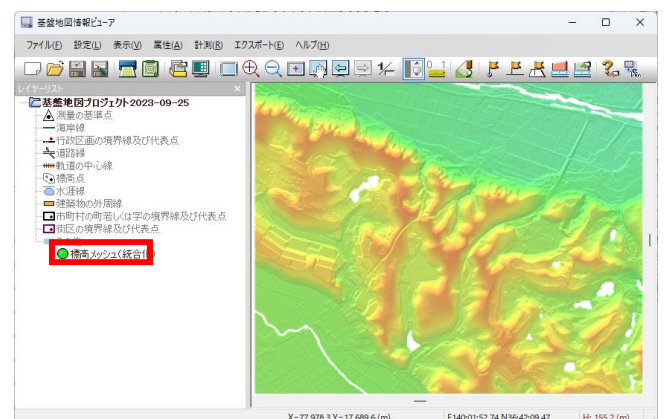
標高メッシュが読み込まれている場合、シェープファイルデータへの変換が可能です。

操作方法

1. [エクスポート]-[標高メッシュをシェープファイルへ出力]を実行すると、[標高メッシュデータのシェープファイルデータへの変換]ダイアログボックスが表示されます。
2. 変換方法の詳細設定を行います。
3. 読み込み時に「大量のデータに対して専用ファイルを構成して利用する」チェックボックスが OFF の時は、出力したい標高メッシュデータを「出力対象」のドロップダウンリストから選択いただけます。



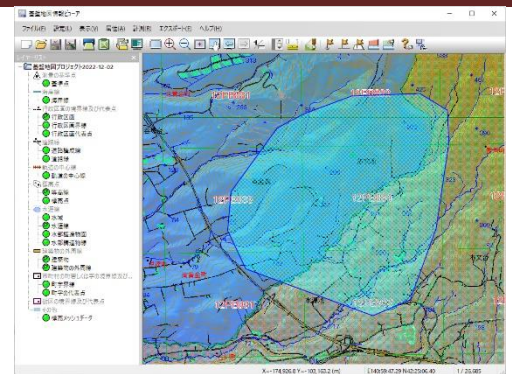
ON の時は、複数開いた標高メッシュデータが 1 つのデータに統合されるため、個別に「出力対象」を選択することはできません。



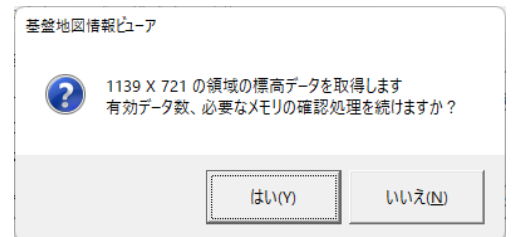
4. 「出力先ファイル」を設定します。
5. 平面直角座標系に変換する場合は、「直角座標系に変換して出力」チェックボックスを ON に設定し、系の選択も忘れずに行ってください。
6. 「(おおむね)現在表示されている要素のみを出力」ラジオボタンを ON にすると、現在画面上に表示されている範囲の領域が「変換する領域」となります。



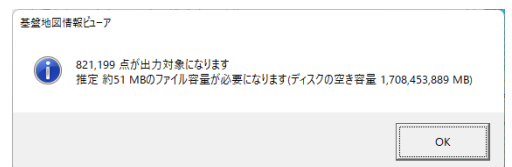
7. あらかじめ画面上で領域を選択（[エクスポート]- [矩形領域選択]、[任意（ポリゴン）領域選択]等）することにより、選択された領域のみのデータを出力することができます。



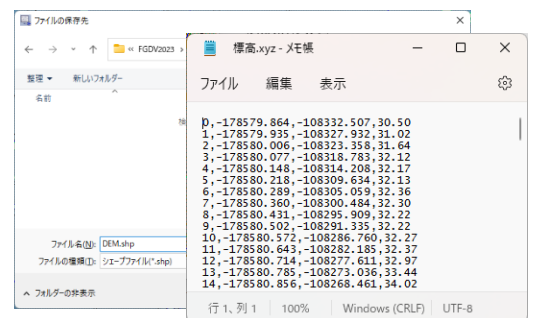
8. 【出力サイズ確認】ボタンをクリックすると、メモリ確認のメッセージが表示されます。



9. 【はい】をクリックすると、実行した場合の必要容量を表示します。



10. 【標高メッシュデータのシェープファイルデータへの変換】ダイアログボックスの【OK】ボタンをクリックすると、処理を開始します。変換結果は、シェープファイルを表示できるソフトウェアで確認ください。



※シェープファイル以外に、テキスト形式のファイル(.xyz)へ出力することも可能です。出力されるファイルはカンマ区切りで、ID,X,Y,Z の並びになります。

プロジェクトの保存

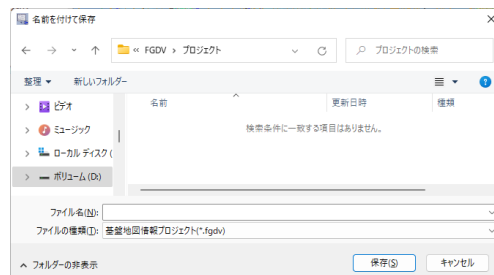
プロジェクトをファイルに保存して、次回以降も利用できます。

操作方法

1. [ファイル]-[名前を付けて保存]を実行します。



2. [名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。
3. ファイル名の指定を行い、【保存】ボタンをクリックすると基盤地図情報プロジェクト(*.fgdv)として保存されます。
4. 一度名前を付けて保存したプロジェクトは[ファイル]-[上書き保存]で上書き保存できます。



このプログラムの情報

バージョン情報などが表示されます。

操作方法

1. [ヘルプ]-[バージョン情報]を実行します。
2. [バージョン情報]ダイアログボックスが表示されます。

